

ニュース News

一般社団法人日本パラリンピアンズ協会は8月23日、パラリンピック選手の1人当たりの年間自己負担が平均で147万円であるとの調査結果を発表した。

調査は今年7～8月、リオ大会とソチ大会の出場選手やコーチなどを対象に実施。175人が回答した。

調査結果によると、1年間に競技のために個人負担する費用は平均147万円に上り、選手の6割以上が年100万円以上を自己負担していた。

負担の大きい費用は海外遠征費（42%）が最多。国内遠征費（28%）、道具購入費（同）、治療費（23%）、国内合宿費（同）、競技用車いすなどの購入費（22%）と続いた。

企業と何らかの契約を結ぶ選手は69%。契約形態は、契約・嘱託職員が50%、アスリートとしてスポ

パラリンピック、自己負担 年147万円

リオ・ソチ出場選手らに調査

ンサー契約が37%、正規社員が24%、アスリートとしてプロ契約が8%だった。

一方、障害のためスポーツ施設の利用を断られた経験がある選手は22%。理由は「競技用車椅子で傷がつく」、「けがした時の保障ができない」などだったという。

障害者スポーツ発展のために重要と思うことを聞いた質問には「障害者が合宿や大会で宿泊できるホテルが限られている」、「競技を超えた選手発掘事業の充実と、選手が競技を継続できる支援が必要」、「海外みたいに健常者と同じ大会に参加できるようにしてほしい」などの声が寄せられた。

（福祉新聞・第2777号 2016年9月5日）

ニュース News

文部科学省が8月4日に公表した「2016年度学校基本調査（速報値）」で、小中学校の在学者数が過去最少になる一方で、特別支援学校の在学者が過去最多を更新したことが分かった。

特別支援学校数は11校増の1,106校、在学者数は1,827人増の13万7,939人で、ともに過去最多となった。

一方、学校数は幼稚園が414園減の1万1,138園、幼保連携型認定こども園が851件増の2,760園、小学校が281校減の1万9,943校、中学校が78校減の1万228校、高校が14校減の4,845校となった。

特別支援学校に13万人超

小中学校の子供は過去最少（文部科学省）

また、在学者数は、幼稚園児が6万1,017人減の132万8,791人、認定こども園児が11万2,253人増の38万8,240人、小学生が5万8,967人減の638万6,207人、中学生が5万8,127人減の335万5,877人、高校生が9,391人減の326万686人だった。

調査ではこのほか、1年以上の居住不明者が104人（小学生61人、中学生43人）いることもわかった。不明者は昨年より14人減っており、5年連続で減少した。

（福祉新聞・第2777号 2016年9月5日）

ニュース News

厚生労働省が8月31日に発表した2015年度介護給付費等実態調査で、介護保険サービスの利用者は前年度比2.9%増の605万1,100人となった。8年連続で過去最多を更新し、初めて600万人を超えた。

利用者の内訳は、介護サービスが484万人、介護予防サービスが155万9,500人（重複含む）。

利用者1人当たりの費用は月額15万7,000円（16

介護保険利用者600万人超す

8年連続で最多更新

年4月審査分）で、前年同月より800円減った。都道府県別にみると、介護サービスでは沖縄の21万300円が最も高く、鳥取の20万6,000円、石川の20万3,700円の順。最も低いのは福島県の18万1,700円で、次いで北海道の18万2,900円、埼玉の18万3,500円だった。

（福祉新聞・第2778号 2016年9月12日）